

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801073		
法人名	医療法人 翌檜会		
事業所名	グループホーム「ばらいろ」		
所在地	福岡市東区名子1-1-5		
自己評価作成日	平成22年11月12日	評価結果確定日	平成22年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも笑顔で笑いが絶えず、家庭的雰囲気の中での生活を目標に掲げている施設です。二ヶ月ごとに各イベントを行ない、入居者、家族に喜んでもらっています。また、リビングの窓から見える畑には旬の野菜やお花を植えていて食べて、見て楽しんでます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年12月1日		

医療法人が、協力病院や併設する老健と連携した対応を求める利用者の声に応える形で開設された事業所である。特徴として、11ユニットならではの細やかな支援や法人全体での研修指導体制等がある。今年で開設6年を迎え、利用者の半数は90代後半と高齢化に伴い、全員での外出等は難しく、比例して家族の側からも外出支援が困難となってきた。この状況を踏まえ、本年度は家族会を隔月開催し、家族と利用者の交流を密にはかり、関係性の継続やレクリエーションの充実に取り組み、ホーム全体が意欲の高まりをみせた。管理者自身が産休後の職場復帰を果たした事例をはじめ、職員の定着率の良さやチームワークの良さも伺える。今後は、法人全体での様々な形での地域交流や展開に期待できる事業所である。

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-)です。)

自己評価および外部評価票

ユニット名: グループホーム「ばらいろ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各自、スタッフの名札の裏に入れて、いつでも見られる様にしている。	法人全体の理念に加えて、地域密着を意識した、具体的で分かりやすい理念をつくりあげている。各職員は名札と理念を常時、持ち日常のケアを通じて、理念の浸透に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	実施できていない。	見学の受入れや散歩時の挨拶等を通じて、自然な形での近所付き合いを行っている。法人全体でも夏祭りを開催し、地域住民に参加を呼びかけている。	医療、施設、在宅事業所等と併設する貴事業所は、法人全体による、様々な形での地域との連携や情報提供が可能と思われる。職員自ら清掃活動や勉強会の開催等の提案もなされました。今後の取組みを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施できている。	家族、いきいきセンターふくおかの職員等の参加のもと2ヵ月ごとに開催している。会議では、活動報告や利用者の状況報告や防災対策等について協議や質疑応答・提案等がなされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密には連絡を取っていないが、運営推進会議の終わった後などに話している。	運営推進会議に、行政や地域包括支援センター職員の参加があり、情報交換や質疑応答が実施されている。また、市主催の研修には可能な限り参加し、連携の機会を確保できるように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては取り組んでいるが、帰宅願望が強く、不穏状態の入居者がいる場合には、一時的に玄関の施錠をしたりする事もある。	身体拘束廃止にむけての研修は、法人の全体研修として定期的に行われており全職員が交代で参加できる体制となっている。ベッド柵や施錠、言葉かけや行動制限等においても、意識を持ち、職員間で話し合いや確認をしながら支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体で取り組み、事業所の勉強会などに参加して防止に努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修で学んでいる。	職員の内外の研修会への参加や資料回覧等を実施している。利用者・家族へは、必要時に情報提供や手続きの支援を行っている。運営推進会議時や家族会時に、包括支援センター職員による制度の説明等を計画している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施できている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事を行った後、又、運営推進会議の際に家族の意見、要望などを聞いて今後に生かしている。	面会時や家族会、運営推進会議時等を利用して、利用者や家族の意見や思いの表出に努めている。意見や苦情については、内容に応じてその場での回答や職員会議で検討した後に回答している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、フロアー会を設け、色々な意見を聞いたりしている。	毎月のミーティングにて、職員の意見発表の時間を設けている。日常的にも職員が意見や提案を出しやすいような雰囲気づくりに努めている。また、本人の希望や家庭環境を考慮して部署異動等の事例もみられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実施できている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	実施できている。	職員採用についてはヘルパー2級を原則とし、年齢や性別、経験等は問わず、本人の意欲や適性等を重視している。プライベートの充実や資格取得を奨励し、外部研修への参加も出勤扱いとする等の支援体制がある。職員の定着率も高く、産休を利用して勤務する職員の事例等がみられた。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	実施できている。	法人の研修計画に人権教育を位置付け、毎年実施している。高齢者にまつわる問題から、幅広いテーマを取り上げ、人権学習や啓発活動等への取組みがある。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施できている。月に1回、法人内での勉強会に参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	実施できていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実施できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実施できている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実施できている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	実施できている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	実施できている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	写真を見ながらコミュニケーションを取ったり、家族の話をしたりしている。	可能な限り利用者が継続してきた趣味活動や習慣、馴染みの人達と交流する機会が保てるように支援している。本年度は家族会を隔月ごとに開催することにより、多くの家族と利用者の懇親や交流の実績がみられた。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	実施できている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実施できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実施できている。	契約時の聞き取りや計画の見直し時に、生活歴等を含むアセスメントの概要をまとめ記録している。入居後の意向については、日常の会話や様子を詳細に支援経過に記録している。	日々の状況を細やかに記録されていますが、利用者の思いや意向についての記述にはバラツキが見られました。職員同士で得た情報を記録、共有することにより、利用者本位の個別支援が充実した取組みとなる事を期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実施できている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施できている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施できている。	毎日の申し送りやカンファレンスを活用して、モニタリング、評価、介護計画の見直しを定期的に行っている。また、心身状況に変化が生じた際にもその都度対応し、関係者で話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画作成の経過として職員や関係者参加によるカンファレンスが定期開催されている状況を記録化する事は利用者本位のサービス提供やチームケアの観点からも重要な要素であると思われます。今後の取組みを期待します。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施できている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施できている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実施できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実施できている。	主治医は、利用者家族が選択している。歯科、協力医療機関からは往診もあり緊急時対応や入院等についても連携体制にある。また、訪問看護や併設事業所の看護師とも連携しながら適切に対応している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実施できている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施できている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実施できている。話し合いとまではいかないが、面会に来られた際にお話ししたり、している。	重度化や医療連携について予め説明し、同意してもらい、心身状況に応じて段階的に話し合い、本人・家族の意向を確認している。母体が病院であり、緊急時や一時入院等についても柔軟に対応できる体制にあり、可能な限り本人、家族の意向にそって支援している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行っていないが、マニュアル等で把握している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実施できていない。	定期的に併設する施設、通所介護事業所と合同で避難訓練を実施し、避難経路の確認や消火器の使い方などの指導を受けている。地域への協力については運営推進会議の中で働きかけを行っている。	老健施設等と併設する貴事業所の場合、非常災害時等における相互の連携体制に加えて、地域との協力体制は大変重要な要素となると考えられます。法人全体での地域との協力体制づくりにむけた取組みを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施できている。	言葉づかいや対応については、最初の導入研修や勉強会、その都度の指導を行っている。個人情報に関しては規定を設け、情報や記録物等は、事務所やスタッフルームにて適切に管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実施できている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	実施できている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	実施できている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きなどは入居者にしてもらっている。	併設する施設の厨房で調理し、台拭きや配膳、後片付け等を職員と利用者が分担して行っている。また、家族会等の行事食は職員と利用者が協力して調理し、参加者にもてなす事を楽しみながら相互の懇親の機会として実施している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食後、記録して把握している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施できている。自分で出来ない入居者は介助している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	実施できている。	排泄パターンを把握しながら、支援手順を作成し、可能な限り自立に向けて個別支援している。歩行が困難とされる利用者も可能な限りトイレ誘導しながら、立位、移乗、手引き歩行に取組み、機能維持に向けて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実施できている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大体の曜日、時間帯は決めているが、必ずしもそうではなく、希望時にはその都度入浴をしている。	毎日準備し週三回は入浴できるように取り組んでいる。他にもシャワー浴、足浴等、本人の意向に沿って工夫しながら定期的な清潔保持の機会を確保している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施できている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施できている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実施できている。気分転換に散歩に出かけたり、併設施設で月二回、英会話教室に参加したり、月1回の音楽教室に参加している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩には出掛けたり、希望時には近くのコンビニに行ったりはするが、実施できていない。	花見や行楽等、計画立てでの外出のほか、日常的な散歩や買い物かねたドライブ等、可能な限り実施している。また、隔月の家族会時にも家族との気軽な外出を呼びかけ、近所の喫茶店等の情報を紹介している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる娘、息子さんにハガキを書いたりしている。電話の希望時には職員がかけて本人に代わっている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施できている。	全体的に明るく、歩行器や車椅子がゆっくり離合できる広さがある。本年度は調度品や絵画等、インテリアにも趣向をこらし、上品で落ち着いた雰囲気となっている。リビングの畳スペースは全体を見渡す事ができ、安全かつゆっくりとくつろげるように配慮されている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実施できている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施できている。	洋室にベット、ク-セット等が設備されている。利用者と家族が相談して、寝具や調度品、家族の写真等、馴染みの物が持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫している。また家具の配置等、安全面での配慮が見られた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実施できている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			